

# 令和 6 年度事業報告書

社会福祉法人 南都栄寿会

# 令和 6 年度事業報告書

社会福祉法人南都栄寿会

## 1. はじめに

令和 6 年は能登半島での地震で幕を開け、夏には長期間におよぶ酷暑や水害を経験するなど、日本、そして世界が自然災害に翻弄される 1 年となりました。南海トラフ地震の発生が予想されるなか、社会福祉法人として支援を必要とする方々の生活をどう守り続けられるかを改めて考える時期にきていることを実感します。

福祉を取り巻く環境は決して順風ではなく、職員の所得向上に向けた取り組みや事業所としての健全経営に向けた取り組みは、国の施策に左右されがちです。

そのようななかにあっても、私たち自身が災害に耐えられるよう体力をつけ、災害時であってもニーズに柔軟に応えられるよう、体制を整えておかねばなりません。地域福祉の担い手として、事業を途切れさせることなく次世代に引き継げるよう、挑戦を続けていきます。

## 2. 令和 6 年度の事業について

### ○介護報酬の改定

令和 6 年度は 4 月の介護報酬改定により、収支状況の改善が図られたほか、6 月には処遇改善加算の改定があり、結果、利用者数は令和 5 年比で 98.3%とやや減少しましたが、収入は 101.5%と増加しました。

全体として支出の抑制に努めたほか、補助金などを活用した結果、令和 6 年度はプラスで終わることができました。

一方で物価の高騰はなお続いており、特に食材料費や水光熱費に大きな影響を及ぼしています。4 月以降利用料の一部を改定するほか、各種加算についても取得可能性があるものについては積極的に取り組むなど、収支の更なる改善を図ります。

### ○介護人材の不足

人材不足は依然として深刻であり、介護職員への一時金の支給などでは到底解決をみることはできない状況です。新規入職者を確保しづらいなか、現に働いている職員の負担を減らしつつ、より長く働ける環境を整備することが急務となっています。業務効率の向上と同時に処遇の改善を図り、職員の定着を目指すとともに、募集対象年齢の引き上げや募集方法の見直しをすすめています。

### ○施設・設備の老朽化

本館は開設から 25 年、東館で 18 年、西館でも 11 年が経過し、施設設備の老朽化が確実に進行しています。電気設備や生活関連設備などを適宜更新しつつ、整備にも力を入れ、より長く使い続けられるように丁寧な運用を心がけます。

### 3. 令和 7 年度に向けて

#### ○職員の確保および長期的な育成体制の整備

安定的な運営に向け、介護職員およびその他専門職員の確保を図ります。業務内容を見直し、年齢や体力に見合った仕事を整理することで、高年齢層でも長く働き続けられる環境づくりを目指し、より幅広い年齢層の職員確保を目指します。

また、従前の研修体制をさらに拡充させるとともに、次世代を担うリーダー層の育成に向け、研修・育成体制の検討・実施に取り組みます。

#### ○生産性の向上に向けた取組

少ない職員数で効率的な業務の遂行が可能となるよう、DX などを取り入れた生産性の向上を図ります。業務内容を精査し、人手をかけるべき部分に効果的に労働力を投入できるよう努めます。

#### ○自然災害への対応力強化

南海トラフ地震の発生確率が年々高まるなか、自然災害、とりわけ地震への備えが急務となっています。事業継続計画（BCP）に基づいた訓練や体制整備、計画そのものの見直しなどをおこない、発災時にも地域の福祉拠点として機能を発揮できるよう努めます。

#### ○施設設備の計画的な更新

施設設備の老朽化が進んでいますが、事業継続に支障が生じないよう、また、利用者のサービス利用に影響が及ばないよう、計画的な補修・整備をおこないます。一つひとつの費用負担も大きいことから、補助金や助成金などの積極的な活用も検討します。

# 令和 6 年度業務報告書

## I 特養部

---

### 1 令和 6 年度重点目標

- ① ご利用者の重度化防止に向けた取り組みと認知症ケアの向上
- ② 支援計画の実践と実践の評価
- ③ 職員の質向上のための育成強化
- ④ ショートステイご利用者へのケア充実と稼働率向上
- ⑤ ご家族との良好な信頼関係づくり

### 2 事業の結果

- ① 感染症クラスターの影響で機能訓練や余暇活動が制限されましたが、介護技術向上チームの指導により、移乗介助の技術が向上し、介護事故は大幅に減少しました。
- ② 多職種によるカンファレンスを通じて支援体制を整えましたが、ケアプランの実践が不十分で、現場でのケアにばらつきが見られました。
- ③ サービス向上チームにおいて、主体的に活動する職員が増え、専門的な取り組みが強化されました。今後は部署間の報連相の徹底や感染症対応体制の強化が課題です。
- ④ 新規利用者の紹介と継続利用により、ショートステイの稼働率が向上しました。

### 3 課題

- ・機能訓練や余暇活動は計画があっても実施が不十分で、5W1H を意識した計画内容の明確化と役割分担が今後の課題です。
- ・感染症対策では研修を行ったものの、実際の対策が十分に機能しませんでした。日常的な意識向上が必要です。
- ・居室や車椅子の清掃不足や持ち物管理不足による苦情があり、整理整頓の見直しが求められます。
- ・PDCA が十分に機能しておらず、ケアの質向上のためにチームでの共有や計画の見直し体制を強化します。
- ・ショートステイでは計画書と報告書の遅延が連携に影響しており、業務体制の整備が急務です。

### 4 自己評価

業務計画に基づき、多職種が連携して個別ケアを実践した結果、看取り希望のご利用者が増え、利用者・ご家族から「西ノ京苑に入所して良かった」との声を多くいただきました。業務改善では、職員間の連絡体制を整備し、効率化が進みました。

来年度は更なる生産性の効率を目指し、ご利用者への必要なサービスの質向上を図ります。ご家族面会や地域の方の出入りなどが、職員の勤務姿勢に良い影響を与え则认为ます。今後もしっかりとご家族・地域と関わりを持ち、社会的ニーズに応えていきます。

## Ⅱ 医務室

---

### 1 令和6年度重点目標

- ① ご利用者及び職員の健康管理
- ② 医療職－他職種間の連携と教育
- ③ 業務改善（関係機関との連携）

### 2 事業の結果

- ① ご利用者及び職員の健康管理
  - ・医療・看護における事故防止に取り組みましたが、確認不足による誤薬が発生しました。
  - ・ご家族からの苦情や不満は受け付けませんでした。
  - ・入院回数の減少を目指しましたが、前年度の42件から52件に増加しました。
  - ・感染症クラスター発生が、8月1フロア、12月4フロアありました。
- ② 医療職と多職種間の連携と協力
  - ・研修内容が現場で十分にいかされていない場面が見受けられました。
  - ・ケアプランで担当ケアワーカーの対応が不十分なケースがありました。
  - ・申し送りの質向上を目指しましたが、現場での活用に課題が残りました。
  - ・外国人職員の業務は看護師の業務関係においては進めることができました。  
介護現場での指導は今後が必要です。
- ③ 業務改善（関係機関との連携）
  - ・医務室の業務の効率化により生産性が向上しました。
  - ・FAX導入で業務動線が短縮されました。

### 3 課題

- ① 感染症
  - ・令和6年度には8月と12月にクラスターが発生したことを踏まえ、7年度はスタンダードプリコーションの徹底を目指します。
- ② 業務改善
  - ・医務室全体の効率化は進みましたが、個人単位での改善を継続します。
- ③ 介護への協力
  - ・業務改善で生まれた時間を活用し、入浴サポートを実施しています。
  - ・今後の業務改善で時間に余裕が生まれれば、さらに協力を検討していきます。

#### 4 自己評価

日々多忙な中でも、看護師一人ひとりが熱心に業務に取り組むことができました。その成果もあり、ご利用者様やご家族から大きなクレームはありませんでした。

一方で、他部署との情報共有が不十分な場面もあり、看護・介護の提供に一貫性欠くことがありました。次年度はこの点の改善に努めます。

業務改善として、薬の準備や記録の保管方法を見直し、医務室としての生産性は向上しました。しかし、個人レベルでは、看護・介護の質や量にばらつきがあり、優先順位や判断基準に統一感を書いています。

令和7年度は個々の働き方を見直し、生産性とケアの質向上を目指します。

### Ⅲ 管理栄養士

---

#### 1 令和6年度重点目標

- ① 食べられない方への早期支援
- ② ユニットでの調理の実施
- ③ 予算内での給食の運営と食事内容の充実

#### 2 事業の結果

- ① 食べられない方への早期支援

介護記録ソフトを活用して毎日のご利用者の心身の状態を把握することで、食事対応が必要な際に多職種と連携しやすくなり、実施内容の共有や評価も容易になりました。しかし、感染症発生時には状況把握と食事対応が遅れ、入院に至るケースも見られました。

- ② ユニットでの調理の実施

新型コロナウイルスが5類に移行したことで、ユニット外で行っていた調理をユニット内で実施できるようになり、冬場には温かい鍋を提供することができました。また、感染症の影響で実施には至りませんでした。年始には施設全体での餅つき大会を企画しました。

- ③ 予算内での給食の運営と食事内容の充実

令和6年度も給食用食材の多くが値上げしましたが、厨房と協力し、工夫を重ねることで、品数を減らすことなく、年間予算内での食事提供を継続できました。

#### 3 課題

- ① 他職種との連携を図る中で、栄養士が日頃から食事の様子を観察し、その情報に基づいて食事支援を行うことの重要性を再確認しました。特に、食事中的巡回（ミールラウンド）の必要性を強く感じており、今後は栄養ケアマネジメントの手順を明確化し、「食べられない原因」を多角的に検討することで、入院のリスク軽減を目指します。

- ② ユニット内での調理実施には、厨房業務の見直しと、ユニットに出向く時間の確保が必要です。介護職員と共に創意工夫ができる人材の育成を進めるためにも、給食管理業務の効率化が課題となっています。

- ③ 給食管理の効率化と併せて、食材価格を考慮しながら献立を作成するためのPC活用が進みませんでした。また、感染対応に迫られるなかで、感染症発生時に備えた食事提供マニュアルの整備も今後の課題として挙がりました



#### 4 自己評価

目標に対して具体的な実施内容を明確にできなかったため、平常業務や感染症クラスター対応に追われた一年となりました。厨房の課題解決も含め、目標の達成に至らない項目が多く残りました。令和7年度は給食ソフトの活用を軸に見直しを図り、ご利用者に喜んでいただける食事サービスの提供を目指していきます。

## IV デイサービスセンター

---

### 1 重点目標

- ① 新規利用者獲得と既存利用者の重複利用
- ② サービス内容の充実
- ③ 個別ニーズへの対応・共有・見直しと職員教育

### 2 事業の結果

#### ① 新規利用者獲得と既存利用者の重複利用

令和6年度は新型コロナウイルス感染症の影響も減り、感染症が原因となる利用の落ち込みは落ち着いてきました。

上半期では平均20名に達していませんが、報酬改定の影響もあり、前年度より売り上げが150万円ほど上昇しています。要支援の方が要介護になられたことに加え、新規の利用者が要介護であることが多かったためと考えています。

下半期では11月頃から入院される方、入所される方、お亡くなりになられた方が増えた結果、利用率が大きく落ち込みました。

#### ② サービス内容の充実

食事は以前と変わらず美味しいとお声を頂いています。今年から餅つきを月に一度実施しサービス内容を充実しました。ご利用者様もとても盛り上がり活気つきました。イベントなどを多く取り入れるようにし、クリスマス・お正月・節分・雛祭り・端午の節句といった季節の行事を実施することで楽しんで頂くことができました。

#### ③ 個別ニーズへの対応・共有・見直しと職員教育

個別のニーズを伺うと、もっと楽しく生きたいと言われる方が多く、レクリエーションにも力を入れています。カラオケ・手芸・麻雀・お話しなどを1日の間におこない、一人ひとりのご利用者がそれぞれ、楽しんでいただくことができました。

### 3 課題

- ① 新規利用者獲得の面では利用人数の上限に達してしまう曜日もあり、新規を受け入れることができない月がありました。一方で入院の方が増えてしまうと、すぐには新規の方を増やすことができず、稼働に影響を及ぼします。

- ② 行事を増やすと準備などで職員の負担になる恐れがあります。

- ③ レクリエーションにもっと人員を配置し色々なニーズに対応して行けるよう人員配置の見直し・業務内容の見直しが必要と考えています。

#### 4 自己評価

レクリエーションをもっと充実することができれば、西ノ京デイサービス行くと楽しい  
と思っ頂き、新規につながっていくと考えています。皆で同じことをするのではなく、  
個々人がしたいことをしてもらえよう、取り組んでいきます。

## V 在宅介護支援センター

---

### 1 重点目標

- ① 在宅介護に対する総合的かつ包括的な支援
- ② 自己啓発と介護支援専門員としての資質向上

### 2 事業の結果

- ① 在宅介護に対する総合的かつ包括的な支援

コロナ・インフルエンザといった感染症の流行の中で、マスク着用・手洗い・うがいを徹底して、感染予防に努めと結果、職員が感染することなく、モニタリング・アセスメントを行うことができました。引き続き予防を徹底して業務に取り組みます。

コロナ・インフルエンザに感染した利用者に対して、迅速に医療機関への受診・介護事業所の代替サービスを提供することができ、重篤にならず、在宅生活を継続することができました。

病院から退院して、自宅で生活することは困難と思われていた利用者に対して、主治医・看護師・家族と連携をとり、本人・家族の希望に沿うかたちで、ご夫婦お二人とも、最期を自宅で看取ることができました

入院・入所した利用者に対して面会を通じて情報収集をおこなったり、退院・退所前カンファレンスに参加したりと適切な介護サービスにつなげることで、スムーズに在宅生活を送ることができました。

- ② 自己啓発と介護支援専門員としての資質向上

包括支援センターが主催する研修に参加し、介護保険の改正・後見人制度を学び、自己啓発をおこないました。

知人のケアマネの退職に伴い、利用者を10人引継ぎ、新規の顧客の獲得をおこないました。

ケアマネネットワーク会議の社会資源班において、圏域の事業所リストの作成をおこない、利用者の在宅支援に役立てました。また事例検討会では、介護保険サービス以外でのアプローチを検討し、普段の業務を見つめ直すきっかけとなりました。

六条地区社協が主催するサポーター会議では、講習会開催の支援を行い、地域の高齢介護の課題・現状を学ぶきっかけとなりました。

### 3 課題

入院・入所した利用者の中には、他事業所・医療機関と連携し、積極的かつ迅速に支援をおこなえば、在宅生活を継続できた方もいました。また退院・退所した利用者にも、同様の支援をおこなえばといった方がいました。日頃からのネットワーク構築・関係強化、他事業所との連携、そしてそれにつながる地域包括ケアシステムの大切さを改めて痛感し

ました。

居宅の利用者数も、入院・入所等により減少した時期があることから、今年度は数字を例年度以上に意識して業務に取り組みます。

#### 4 自己評価

ケアマネネットワーク会議の事例検討会における新しい体制のもと、他事業所のケアマネとともに研鑽を積んでいきます。

ケアマネネットワーク会議の社会資源班において、圏域の社会資源（今年度はグループホーム）の掘り下げ・洗い出しを進め、業務に活かしていきたいです。

事例検討会・社会資源班を通じて、他事業所のケアマネと、包括主催の研修でサービス事業所と交流を図り、同法人への利用者紹介と地域包括ケアシステムの構築を少しでも進めていきます。

居宅の利用者数を例年度以上に意識して、新規の獲得・営業を積極的に図っていきます。

## 利用者数推移表

(単位 人数：人 前年度比：%)

年度		本館		東館		西館	通所		合計
		特養	短期	特養	短期	特養	要介護	要支援	
H28 実績	延人数	19,503	1,120	10,614	3,690	3,378	6,557	1,674	46,536
	(1日当り)	53.4	3.1	29.1	10.1	9.3	21.0	5.4	131.3
	前年度比	99.2	24.3	98.4	113.3	94.5	87.0	108.0	91.3
H29 実績	延人数	12,767	668	10,237	3,960	6,913	7,029	1,650	43,224
	(1日当り)	35.0	1.8	28.0	10.8	18.9	22.7	5.3	122.5
	前年度比	65.5	59.6	96.4	107.3	204.6	107.2	98.6	92.9
H30 実績	延人数	12,179	16	9,764	877	9,589	7,299	1,533	41,257
	(1日当り)	33.4	0.0	26.7	2.4	26.3	23.4	4.9	117.1
	前年度比	95.4	2.4	95.4	22.1	138.7	103.8	92.9	95.4
H31 R01 実績	延人数	12,484	73	10,591	1,223	10,780	7,264	1,960	44,375
	(1日当り)	34.1	0.2	28.9	3.3	29.5	23.1	6.2	125.3
	前年度比	102.5	456.3	108.5	139.5	112.4	99.5	127.9	107.6
R02 実績	延人数	12,121	0	10,506	1,322	10,645	4,077	728	39,399
	(1日当り)	33.2	0.0	28.8	3.6	29.2	13.0	2.3	110.1
	前年度比	97.1	0.0	99.2	108.1	98.7	56.1	37.1	88.8
R03 実績	延人数	12,289	0	10,519	1,404	10,530	4,732	707	40,181
	(1日当り)	33.7	0.0	28.8	3.8	28.9	15.1	2.3	112.6
	前年度比	101.4	-	100.1	106.2	98.9	116.1	97.1	102.0
R04 実績	延人数	11,932	0	10,394	2,225	10,405	4,658	1,088	40,702
	(1日当り)	33.7	0.0	28.5	6.1	28.5	14.9	3.5	114.2
	前年度比	97.1	-	98.8	158.5	98.8	98.4	153.9	101.3
R05 実績	延人数	12,203	0	10,616	2,846	10,067	5,279	798	41,809
	(1日当り)	33.4	0.0	29.0	7.8	27.5	16.8	2.5	117.0
	前年度比	102.3	-	102.1	127.9	96.8	113.3	73.3	102.7
R06 実績	延人数	12,401	0	10,470	2,771	10,143	4,948	386	41,119
	(1日当り)	34.0	0.0	28.7	7.6	27.8	15.8	1.2	115.1
	前年度比	101.2	-	98.8	97.5	100.3	94.3	48.9	98.3
R07 計画	延人数	12,220	0	10,403	2,920	10,403	5,384	960	42,290
	(1日当り)	33.5	0.0	28.5	8.0	28.5	17.2	3.1	118.8
	前年度比	98.5	-	99.4	105.4	102.6	108.8	248.7	102.8